

東京大学での所属学部/研究科・学年(プログラム開始時):

参加プログラム: Sciences Po Summer Programme 派遣先大学: パリ政治学院

卒業・修了後の就職(希望)先: 1.研究職 2.専門職(医師・法曹・会計士等) ③.公務員 4.非営利団体
5.民間企業(業界:) 6.起業 7.その他()

派遣先大学の概要

パリ中心部に位置し、ヨーロッパ有数の社会科学に特化した私立大学です。Summer Programme は午前中にフランス語の文法中心の授業を4時間、午後に会話重視の授業を2時間、週2回英語で国際関係とフランス政治についての英語の講義がありました。まだ新しい Summer Programme なので今後更に充実させようとしていて、社会科学をより重視したプログラムやプログラムの2ヶ月への延長などが現在検討されているようです。

参加した動機

第2 外国語でとっていたフランス語の強化と英語で社会科学の授業を受けて自分がどれほど理解できるのか試してみたかったため。また、フランス語圏は英語圏よりも馴染みが薄く、より大きな挑戦となると思ったため。ヨーロッパに行ったことがなかったので、このプログラムを選びました。

参加の準備

①プログラムの参加手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)

東大の奨学金選考を通していただけたらすぐに現地の大学への参加申し込みをしたほうが良いです。寮が埋まってしまう可能性があります。

②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)

フランスは6ヶ月以内の滞在にはビザは不要です。

③医療関係の準備(出発前の健康診断、予防接種等)

駒場キャンパスの保健センターでトラベルクリニックを受診しました。破傷風の予防接種はまだ有効だったため、A型肝炎のみ接種しました。予防接種は3週間空けて2回打つことが必要な物もあるので、接種を検討している場合は早めにクリニックを受診したほうがよいと思います。

④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)

AIU 損害保険株式会社のS17というタイプの保険です。保険の期間を指定して契約しました。

⑤留学にあたって東京大学の所属学部・研究科で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)

テスト期間と留学が被っていたため、フランス語の教授に相談し、渡航前にレポートとディクテーションのテストを行って頂きました。英語は中間テストや宿題の提出物などで期末試験は免除して頂きました。法学部の専門科目は2月にまとめてテストがあるので問題はなく、総合科目はレポート提出のもののみ選択しました。

⑥語学関係の準備(出発前の英語レベル・語学学習等)

IELTS の7.0を持っていました。フランス語に関しては DELF のA2レベルの証書を持っていました。事前の語学学習としては昨年のフランス語の教科書の復習をしました。

⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど

爪切り、綿棒、自炊するならば食器用洗剤など。

学習・研究について

①プログラムの概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている内容等)

フランス語でフランス語を学ぶ授業がメインです。予習は必要ありませんが、分からない単語が多いので復習をしないとついていけません。17人の少人数クラスで、文法のクラスでもディスカッションが多く、文法:スピーキング:リスニングと長文=1:1:1というほどの割合でした。

②学習・研究面でのアドバイス

フランス語も分からず、日本の教育とは異なり積極的に発言する環境で、初めは大変ですが、使っていないと語学は上達しないので、人の発言によく耳をすまし、自らも積極的に話すように心がけるとどんどん伸びていくと思います。

③語学面での苦労・アドバイス等

上記の通り、初めは心が折れましたが、粘っているうちに徐々に分かることが増えていき、話せることも増えていきます。3週間目には単語さえわかれば自分の言いたいことは言えるようになりました。それでも DELF のテストを最後に受けた時は自分のフランス語力の低さを再度まざまざと見せつけられました。

生活について

①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)

Cite l'Université という寮を大学を通して申し込みました。一人部屋で、共同キッチンで自炊、家賃は1ヶ月で950€でした。

②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)

パリは地下鉄が大変発達しています。パリ市内全域1ヶ月乗り放題の定期券を利用しました。お金は280€現金で持って行き、NeoMoneyに6万円日本でチャージしてパリで引き落としとして利用、クレジットカードも利用しました。

③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)

治安は悪くはないですが、暗くなってから一人で出歩くのは避けました。昼間は女子一人で歩いても大丈夫です。

④要した費用とその内訳(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)

往復航空券 174,780 円、授業料 2100€、教科書代なし、家賃 950€、交通費(定期代)75€、その他食費など生活費で実際に1ヶ月で使用したのは13万円です。

⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)

東大の卒業生奨学金で20万円頂きました。

⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末の過ごし方など)

週末はパリ市内をひたすら観光しました。

派遣先大学の環境について

①参加学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)

特にサポートはありませんが、先生が熱心で休み時間もフランス語で話しかけてくれたり、最終日に全員で近くの公園にお昼にピクニックに行ったりしました。先生は英語もわかるので、フランス語で分からないところは英語で質問していました。

②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC環境等)

図書館はありますが、8月に入ると夏休みで休業します。大学の食堂も休業していました。大学構内はwifiがつながります。寮内もwifiがありました。

プログラムを振り返って

①プログラムの意義、参加を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感

フランス語が上達したと実感できているので、参加してよかったと思っています。一人で1ヶ月海外に住むという経験は大きかったです。自炊や家事などにも気を配りつつ、勉強と観光と、と盛りだくさんの日々を送っていました。パリ市内は観光できる場所がたくさんあり、美術館や歴史的な場所、映画のロケ地など見どころには事欠きません。町中を歩いていて、分かるフランス語が日々増えていくのも楽しかったです。

また、世界中の大学から学生が集まり、私のクラスはアジア、ヨーロッパ、南北アメリカ、オーストラリアとほとんどの大陸から人の集まるとても国際色豊かなクラスでした。全体では日本人も7人いましたが、私のクラスでは日本人が一人で、他の国の友だちとずっと一緒に過ごすことができたのは、とてもよい経験だったと思っています。

②参加後の予定

せっかく上達したフランス語を忘れないように、自分でも勉強を継続していきたいです。学部のうちにはもう留学はせず、東大で学ぶ予定です。

③今後参加を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

パリの中心であり、政治的にもヨーロッパに大きな影響を与えるフランスで学ぶ経験は、自分の視野を広げるという意味でとても大きいものです。フランス語圏に留学する人は少ないと思いますが、だからこそさらにとても貴重な経験を積むことができます。自分を伸ばすという意味でも、ヨーロッパに友達を作るという意味でも、ぜひ臆せずチャレンジしてみてください。

その他

①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物

外務省や厚生労働省のページで予防接種や治安について事前に情報収集をした。その他パリ観光を扱ったブログなどは多いので、それらを読んで事前にイメージを持つとした。

②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。

写真ではありませんが、サマープログラムのプロモーションビデオに出ないかと声をかけていただき、インタビューして頂きました。10月頃 Sciences Po のサマープログラムのホームページに掲載されるそうです。